【抗菌薬の使い方・考え方】

ヒトにはない葉酸合成系を阻害

SMX：TMP=5：1

TMPが実際の抗菌活性を持っており、TMP量で量を調整する

腸管からの吸収が良く、体内のあらゆる組織に以降すうｒ

ワーファリン、メトトレキセート、フェニトイン、ジゴキシンと同時投与で濃度上昇させる

* 副作用

皮疹：3-4%、軽症から重症まで様々、compromised hostの場合は脱感作を

クレアチニン分泌阻害：10%ほどの上昇、腎機能低下を意味しない、腎毒性は極めて稀だがもともと腎機能が落ちている患者には更に腎機能を落とす可能性はある

高カリウム血症：TMPによる遠位尿細管からのカリウム排泄阻害

汎血球減少症：脱感作不可能

* Spectrum

好気性菌のGPCとGNRに広域に効果あり

緑膿菌は外れる

耐性のない腸球菌にもspectrumあり

* 各論

尿路感染症：耐性が20%を超えていなければ1st choice、膀胱炎であれば3日間だけで良い

呼吸器：非定型肺炎以外には良く効くが、1st choiceにはなりにくい

副鼻腔炎・中耳炎：ペニシリンアレルギーのときに考慮

皮膚軟部組織：セフェムアレルギーに考慮、CA-MRSAに耐性がなければ使える

Stenotrophomonas multophilia：第一選択